

第 7 回厚生労働省 ICF シンポジウム  
ICF（国際生活機能分類）活用で拓く未来社会  
～ひとりひとりが輝く未来社会を目指して～

主 催 : 厚生労働省  
日 程 : 平成 30 年 1 月 20 日（土） 13:00～ 16:45  
会 場 : イイノホール（住所：千代田区内幸町2-1-1）  
参加人数 : 307名

開催主旨：

我が国における ICF の普及と実用化を目指して、本シンポジウムをこれまでに 6 回開催し、普及のベースを着々と構築してきたところであるが、こうした動向を加速化するため、今回、WHO と日本 WHO 国際統計分類協力センターの協力事業の一環として、WHO の ICF 活用のキーパーソンを招聘することとした。

ICF の活用最前線にいる担当官が策定した行動計画の中で具体化されたグローバルビジョンを含む未来像を共有することにより、本シンポジウムを更なる ICF の活用を促進するための一大契機とする。

また、一般参加者に向けて ICF の活用状況を報告するポスターを公募し、会場で掲示発表することにより、ICF の普及啓発と利用者間の情報交換の場となることを期待する。

当日プログラム：

基調講演

『なぜ WHO は ICF を重視するのか -Why WHO's Focus on ICF ?』

アラルコス・シエザ（WHO）

非感染性疾患、障害、暴力及び傷害予防部

BDD（視覚・聴覚障害予防・障害及びリハビリテーション）コーディネーター

事例紹介（①～⑤）

①『科学的裏付けに基づく介護に係る検討会について～ICF・改善をどのように評価するか～』

西嶋 康浩（厚生労働省老健局老人保健課介護保険データ分析室長）

代理発表 近藤 和泉（国立長寿医療研究センター副院長）

②『神奈川県におけるヘルスケア・ニューフロンティア政策と未病指標について』

首藤 健治（神奈川県副知事）

③『臨床現場における ICF の活用可能性と課題～高齢者・障害者福祉領域における研究をもとに～』

大冢賀 政昭（国立保健医療科学院主任研究官）

④『ICF に基づく包括的かつ実用的な生活機能評価システムの構築』

向野 雅彦（藤田保健衛生大学医学部講師）

⑤『ICF ステージングを使っての質の評価～情態像の推移を追う～』

折茂 賢一郎（公益社団法人 全国老人保健施設協会副会長）

注：講演資料は、[http://www.who-fic-japan.jp/report\\_icf.html?id=section1](http://www.who-fic-japan.jp/report_icf.html?id=section1) でご覧になれます。